

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300409		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホームサンシャインことひら		
所在地	群馬県桐生市琴平町4-6		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.sanikukai.com/">http://www.sanikukai.com/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和元年10月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日散歩を実施し、転倒予防の対策や下肢筋力を低下させないよう心がけている。</li> <li>・利用者個々の持っている能力や得意な事を活かし、毎日の掃除、洗濯たみ、食事の準備、食器拭き等を行って頂き、役割を持ち生きがいになるようなケアを実践している。</li> <li>・他施設の認知症カフェや、コムチケットイベント、春、夏、秋の合同イベント(運動会・花火大会・さんま会)に参加している。</li> <li>・医療面において、個々の主治医がいる為、こまめに情報交換を行い、体調が悪いときは受診の支援を行っている。</li> <li>・施設に併用畑があり、季節の野菜の収穫を利用者と一緒にし、調理を楽しんでいる。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は町の中心街にあり、管理者自らが、来客者や地域の方々と積極的に関わりたいという思いで運営している。地域交流室を設けており、今後は地域の会議やイベント等に開放したりと、地域の交流に貢献できる事を目指している。そうしたなか、敷地内の花壇で花を育てて近隣に配布するなど、事業所を理解していただく機会としている。ホームの理念のもとに、利用者それぞれの尊厳を大切に考え、心地良い居場所となるよう、利用者の気持ち思い図った対応に努めている。管理者は、職員の理解者として、コミュニケーションが図られた働きやすい職場環境作りに努めており、そうした明るい開放的な雰囲気外部からの訪問のしやすさとなり、結果的に良好なサービスの提供に繋がると考えている。利用者の楽しみのひとつとなっている敷地内の菜園では、トマトや大根など四季折々の野菜を育てて収穫し、利用者と一緒に調理をして食卓に提供している。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	tyuu	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を開設時、職員と作り、利用者様、地域、家族との関わりを大切に、実践に繋げている。玄関や事務所に掲示してあるので、振り返り意識することが出来ている。	開設当初の職員と、難しくなく取り組みやすい理念を作り上げ、問題に直面した時に理念に立ち返って考えている。職員ミーティングで共有し、理念を意識して利用者との関わり、一日の振り返りで再確認している。玄関や事務所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り散歩に出掛け近隣の方々や挨拶を交わし、近くの店に買い物に出掛けている。町役員の方が地域の行事や廃品回収のチラシを持って来て下さり、参加している。	敷地内の畑の活用について民生委員に相談し、一部を貸したり、収穫したジャガイモを地域に配ったりして、住民との交流を図っている。地域交流室を地域の方々にも活用してほしいと考え、働きかけた案内を配布した。また誰でも参加できる認知症カフェ(カフェ・サンクス)の開設を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が見学で来所された時など、施設の様子を見て頂き、質問などがある場合、職員が説明している。地域交流会があり、地域の人に会議等の場に提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話し合った事を報告書にまとめ、掲示板に掲示し、職員に周知し、現場に活かしている。身体拘束適正化委員会も合わせて開催しているので、現況や研修の報告を行い、意見を頂いている。	課題を提起し、皆の意見を聴取しており、直近では、災害時の備蓄や連絡網の整備などについて意見交換を行った。参加者数は多いが、家族は都合がつかない方が多く、参加者が固定している。不参加の家族に会議内容を報告する方法として、議事録を玄関に掲示している。	欠席した家族の意見(感想や提案など)を、吸い上げられるような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の手続きや、運営推進会議に市の職員、包括支援センターに参加して頂いている。施設の現状を報告し問題点を相談し必要な助言、指導などを得、市との連携をとっている。	事業所で発生した問題を、その都度相談している。また、市の安心安全課に、災害研修の相談も行っている。桐生市のいきいきサロンが企画する出前講座を活用し、全職員が緊急時の対応や、AEDの取り扱い方の研修を受講した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束も含めて、利用者様の行動を制する拘束をしないケアを実践している。どうしても必要となった場合は、ミーティングを開き、話し合いを行う、研修を行っている。	身体拘束については、玄関の施錠もふくめ、現状で行っていない。事業所内で拘束についての勉強会を行い、利用者との関わり方や拘束することがもたらす弊害等について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や、着替えのときに利用者様の身体観察を行い、不振なアザ、傷があった場合、原因を突き止め、虐待を見逃さないよう努めている。勉強会に参加したり、アンケートを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で成年後見制度についての研修を実施し学ぶ機会がある。必要とする利用者様がいる場合には相談にのり、活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書、運営規定の説明などを行い、疑問点などを確認し、理解して頂いてから、契約を行う。救急搬送時の対応などや、蘇生の対応については、定期的に家族に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者様や、家族に参加して頂き、意見を聞いている。面会時に家族に意見や要望を聞いている。	面会時間の制限を設けておらず、夜間は面会者に合わせて対応している。面会時に利用者の様子を説明し、いつでも意見・要望を伝えて欲しい旨を話している。居室に鍵をかけたいと利用者から要望があったが、施錠することのリスクを、家族及び本人に説明して納得してもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員共有の申し送りノートを活用し、意見交換や提案などを行っている。月1回のミーティング時に問題点を提案し話し合う機会がある。職員の組合があり、職員が意見や要望を聞き、法人代表と話し合う会議がある。	毎月の希望休と年休(有給)がとれるように検討し、月に1回のミーティングで話し合いを行っている。管理者を中心に職員間の信頼関係が築かれており、法人で組合が組織され、意見・要望を反映しやすい体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でのQC活動や、感動大賞などがあり、現場での実践の発表をする機械があり、職員の意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会等の案内は事務所に掲示してある。各施設に研修委員を置き、職員個々が参加出来る勉強会を毎月1回開催している。法人内の他施設での勉強会の参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のた施設の研修に行ったり受け入れを、行ったり、受け入れを行っている。他施設の講演なども、個々に参加出来る。今年度は、GH大会に参加し、他施設の発表を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入所時に本人と面接を行い、困っている事や、不安な事、要望を聞き入れ、不安に思っている事を軽減出来るコミュニケーションを取り信頼関係を深めるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族に施設の見学をして頂き、要望や心配事を、聞いて初期の段階で良い関係作りが出来る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階でご本人の出来る事、出来ない事、やりやすい事、手伝ってほしいことなど、本人とご家族から伺い、ケアの内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様1人1人を人生の先輩である事に敬意を持って接し、個人を尊重し、出来る力を活用し、手伝ってほしい所を援助している。食事の準備、後片づけなど一緒に行い感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の様子を伝え、意見交換や、要望などを伺い、共に支えられるよう支援している。毎月便りを個々に発行し、日頃の様子や外出の様子を写真に載せ知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの美容室を利用出来るよう支援している。また家族了解のもと、知人や友人の面会の受け入れをしている。	地域の理容店と契約し、訪問を依頼している。古くからの関係者と一緒に外食に出掛ける方もあり、必要に応じて現地までの送迎を行っている。友人の面会もあり、関係が途切れないように支援している。地域のお寺に皆で初詣に出掛けたり、個別支援として、毎週、週刊誌の購入に職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出、食器拭きや洗濯物たたみなど一緒に楽しむ機械を設けている。集団の苦手な利用者様に対しては、個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者の家族が来設された時は、本人の様子をうかがっている。入院された利用者様には、利用者と一緒にお見舞いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族とのコミュニケーションを取り、利用者様の思いをくみ取れるように、希望や意思の把握に努めている。日々の生活の中で、その人らしさを大切にしよう努めている。	黙って考え込んでいたり、自室でじっと座っていたりする時は、気持ちに寄り添いその理由をそっと聞き出したり、声かけて不安な気持ちに寄り沿ったりして、その人が必要とされていることに気づかせる努力をしている。また、希望を聞き出しながら、やりがいを見出せるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴、生活環境、暮らし方、これまでのサービス利用の経過などをご家族、本人、担当ケアマネなどから情報を得ている。アセスメントを行い職員全体が把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様1人1人の心身の状態に合わせたケアを行っている。個人記録や、ケア表、申し送り等で職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。その時の状況で、臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様1人1人に担当職員がいる。訪看や栄養士、訪問リハの助言も参考にスタッフ間でカンファレンスを行い、ケアプランの作成をしている。毎月モニタリングを行っている。	担当職員が受け持ちの利用者の情報を整理し、ケアマネージャーに情報を提供し、ケアマネージャーが計画書を作成している。担当職員が毎月モニタリングを行い、結果をミーティングで話し合っており、その後の実践につなげている。3ヶ月毎に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即した支援を行い、ケア表、個人記録に毎日記録を行い、申し送りや、申し送りノートを活用し職員間で情報の共有が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化によって訪問看護、医療機関への受診や、往診など、その時々ニーズに合ったサービスを選択して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館に出掛けバザーに参加したり、地域の節分祭に参加させて頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様個々に本人、家族希望のかかりつけ医を持っている。往診に来てもらったり、必要に応じ職員が受診介助を行っている。電話やFAXで状態報告を行っている。	入居時に、受診についての希望を確認している。緊急時は、協力医の指示を受けて職員が対応している。歯科は、週1回口腔指導を受けている。必要時に安心して受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に毎週定期的に訪問してもらい、利用者様の状態を報告し、バイタル測定や健康チェックをしてもらっている。急変時は昼夜問わず、協力してもらう体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者に状態報告や、普段の様子などを、お互いに情報交換している。法人内に地域連携室があり、ご家族や病院の相談員とこまめに連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護及び、かかりつけ医、他医療機関との連携を取り、出来るだけ家族の希望に合った、方針を立てていく。	終末期の対応について、家族に確認している。急変時のマニュアルを整備し、段階を踏んで家族と相談していくこととしている。転倒のリスクを家族に説明し、終末期には法人内の訪問看護師の指導を受けて24時間の対応を行っている。施設内で看取り研修を行っているが、未だ看取りケースはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の勉強会に職員が参加し、初期対応の訓練を定期的実施している。緊急マニュアルがある。AEDが設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルがある。年2回防災訓練を実施している。地域に回覧を回し、協力、参加をして頂いている。	年2回、災害訓練を実施している。4月に夜間想定で実施した消火訓練には、近隣の夫婦の参加があった。今後は更に地域に呼びかけて、協力関係を築いていく方針である。	夜間においては、地域の協力が必要であり、具体的な協力内容を提示し、協力が得られる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は苗字で呼ぶ対応をしている。トイレ誘導など人前で恥をかかす事の無いよう、小さな声で耳元で伝える。個人情報に気をつけファイルは、人目のつかない所に保存し、秘密保持を厳守している。	浴室のドアがホールに面しているため、ドアの開閉時に浴室内が見えないように、浴室の椅子を上手く活用している。トイレ誘導時には言葉かけの方法を工夫し、「今、空いてますよ」と小声で誘っている。居室の巡視の際には、ティグランの装置を活用することで、曇りガラスが一時的に透明になる仕組みで、個人のプライバシーを守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の要望、希望を傾聴し、自己決定が出来るよう支援している。本人からの希望や要望が聞けないときは、家族から情報を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、その日の体調や気分でも本人のペースに合わせて過ごして頂いている。散歩買い物、外出など声かけは行うが、強制していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が着脱の楽な服を選ぶのではなく、本人の気に入っている服や季節に合った服を選んで頂ける様声掛けをしている。訪問理美容の受け入れや馴染みの美容室に行ったり、外出が難しい片は、馴染みの美容室の受け入れもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る範囲内で食事の準備や配膳片付けを一緒に行っている。週2回手作り昼食を利用者様と一緒に作っている。食事の時は、音楽をかけ楽しみながら食事をしている。	宅配業者から調理済みの副食が搬入され、ご飯はホームで炊き、刻み・とろみ・ミキサー食に対応している。週2回、皆で手づくり昼食を行い、利用者はお膳を下げるなどの片付けを一緒に行っている。オルゴールを聴きながら、楽しく食事を摂れるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御本人の体調や咀嚼、嚥下能力に合わせて食事の形態を変えている。あまり水分を取らない利用者様には、お茶ゼリーを作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じ、口腔ケアを行っている。歯科医からの口腔ケアの勉強会に参加し、ブラッシングの基本を教わり、仕上げを行っている。月1回の口腔指導があり、問題のある利用者様は、口腔指導時に診てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは利用者様個々の排泄パターンを把握し、時間でトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援を行っている。夜間はオムツ対応の利用者様も含め、日中は全員トイレ誘導をしている。	介護度5であっても二人体制でトイレ介助を行い、夜間のみおむつ使用とするなど、介護度が高い方にもトイレでの排泄を支援している。職員は個々の排泄パターンを把握し、排便コントロールを行い、トイレで排便することで褥瘡の予防にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に便秘薬を内服している利用者様もいるが、散歩や体操で身体を動かしたり、腹部マッサージを実施したりしている。手作り昼食や、おやつ時に乳製品や寒天などを提供し、自然排便が出来るよう予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、いつでも入浴出来るようにしている。マンツーマン対応でゆったりと入浴できる環境にしている。	曜日を問わず、基本は午後3回としているが、希望があれば4回の方もいるなど、回数に拘らず入浴支援を行っている。職員との関係作りから始め、入浴へつなげている。入浴剤の使用や、入浴後は美味しい飲料で水分補給等、たのしめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には外に出て、陽の光を浴び、散歩やレクリエーションで体を動かし、安眠や良眠出来るよう心掛けている。本人のペースに合わせて個別に休息している。夜間は本人の希望に合わせて居室の灯りを変えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の用法をお薬手帳や、説明書を参考にし、職員1人1人が把握している。薬の事でわからない事は薬剤師に聞いて参考にしている。薬の変更や追加がある時は、申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近所のスーパーに買い物に出掛けたり、施設に併用している畑で季節の野菜を作り、利用者様と一緒に作物の成長や収穫を楽しむ、それを食べる事で喜びを感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を心掛け実施している。他施設の認知症カフェやイベントに参加したり、季節の花見学やドライブに出掛けたり、公民館で作品作りに参加したりしている。	車椅子の方も自立歩行の方も、天候をみながらほぼ毎日散歩をしたり、外気浴を行ったりしている。第3木・金曜は、認知症カフェへ、家族や事業所で連れて行くなどの支援も行っている。その他、家族と一緒に市内へ出掛けたり、カルチャースクールへ木目込み人形作りに出かけたりしている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解のもとお金を持っている利用者様は、職員と近くの店まで買い物に行き、本人の希望する物を購入する個別ケアを行っている。管理出来ない利用者様は預かり、買物の時に手渡し本人が使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族了解のもと個人の携帯を使用している方もいる。使用が解らない時は支援している。利用者様が御家族に連絡したい時は施設の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに利用者様の作品を展示したり、季節の花を飾っている。廊下にエアコンがついていて、居室と温度差がないよう、居心地良く過ごせるよう対応している。夏はフロアのガラス戸にすだれを下げて光や温度調節をしている。	天井が高く、明るく開放的である。食堂のテーブルは六角で、目的に合わせた形・大きさに組むことができる。正面玄関は、広くて長いスロープになっており、非常口は万一に備えて広く避難しやすい構造になっている。トイレも広く、人感センサーで自動点灯の仕組みになっている。居室毎に壁のクロスが違い、見学時に選択ができる。トンボ、クリ、銀杏など、季節感のある折り紙が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室居住により、1人になりたい時は自由に居室に戻れるようになっている。利用者間のトラブルに配慮しテーブルの配置を変えたり、気の合った利用者様と過ごせる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具の持ち込みを自由にし、本人が居心地の良い空間で過ごせる様工夫している。自宅で使用していた家具を持ち込んだり、個々に過ごせる環境作りをしている。	ベッド、チェスト、家具調のポータブル便器が備えられ、壁にはハンガーフックが常備され、生活しやすい環境となっている。プティックハンガーや、認知症カフェで作ったソーブフラワー、家族写真等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同スペースのホールを中心にキッチンから食事作りの様子や匂いがわかり、家庭的な雰囲気のある工夫をしている。廊下や玄関などに手すりがついているので、利用者様が安全に移動出来る様になっている。		